

第 1 回 香川県栗林公園掬月亭保存修理耐震改修検討委員会

議事概要

1 日時

令和 7 年 7 月 18 日（金）14:00～16:00（委員会）、16:00～16:40（現地視察）

2 場所

栗林公園商工奨励館北館、掬月亭

3 出席者

（委員）

清水真一委員長、宮本慎宏副委員長、山田由香里委員、井原縁委員（web 参加）

（事務局）

西尾交流推進部長 他 11 名

（設計受託者）

有限会社伊藤平左エ門建築事務所他 1 社 3 名

4 開会

西尾交流推進部長挨拶

5 委員紹介

6 委員長・副委員長の選任

清水委員長、宮本副委員長選任

7 会議の公開・非公開の決定

委員長

原則として公開とし、個別の議事内容について非公開とすべきという意見があれば、適宜その場で委員会の方針を決めることとする。本日の議事内容については、公開とすることにより。

各委員

異議なし。

8 議事概要

保存修理耐震改修に関する検討の進め方について

（議事について事務局から「資料 6 栗林公園掬月亭耐震改修について」により説明。設計内容について設計受託者から「別紙 掬月亭耐震改修案」により説明。）

委員

修理内容は屋根の葺き替えと内装の和紙の貼り替えということで、基本的には建物そのものに大きな変形や損傷は発生していないということか。

設計受託者

現状は30年経つが、経年なりのよい劣化状況で、適切な修理時期である。

委員

現在の和紙張りは前回の修理で全て貼り替えられたものか。

設計受託者

前回修理では全て劣化していたので、壁・天井とも全て新しい和紙で貼り替えた。今回も前回と同じ仕様で貼り替える予定。

委員

耐久性の向上という話があったが、具体的には何をするのか。

設計受託者

例えば柿葺で敷込み銅板を工夫することで耐久性をよくしたり、下地や葺方を改良したりといったことを考えている。

委員

特に掬月の間は栗林公園の風景の主たる景観構成要素なので、掬月の間の庭に建てる鉄骨柱の存在がとても気がりである。どうしても鉄骨柱を建てなければならないという今回の結果に至る検討のプロセスその必然性について、もう少し詳しい説明を頂きたい。

設計受託者

壁やブレースあるいは柱を検討し、視認性、開放性を阻害しないものとして鉄骨柱が最も適しているのではないかとということで提案させていただいている。鉄骨についてはその接合部が複雑になりがちだが、その解消策も考えているので、今後お示ししてご意見を頂ければと思う。

委員

鉄骨柱の基礎は独立か、それとも床下に延ばすのか。ここが一番、最善を尽くすことになるのかと思う。

設計受託者

いまのところ土の中に作る案で考えている。今回の修理は根本修理ではないので、経過措置として将来より優れた補強案が出てくれば、そちらを採用するために取り外せるような（元に戻せる、可逆的）補強を考えている。

委員

私も鉄骨柱が気になっている。片側だけで大丈夫なのか、本体とはどのように接合するのか。また、基礎は地面から出すのか。

玉藻公園の披雲閣の補強工事が終わったばかりだが、似たような感じなので、細い柱であれば景観的にはいけるんじゃないかなと思っている。

設計受託者

鉄骨柱と小屋裏に設置する水平ブレースを繋いで一体化させるように考えており、押し引きともに対応する。梁間方向のみ負担するように考えている。

本体との接合は2案考えている。1案目は鉄骨柱と軒桁を繋ぎ、更に軒桁と上屋の桁を繋ぐ案である。垂木の成が52mmなので、この寸法と合わせて目立たないような形で繋ぐ。2案目は垂木と垂木の間の面戸部に鉄骨を入れて、そこで内外を繋ぐ案である。

基礎は地中に埋める。

工法的にはより安全側で行きたいが、掬月の間は最小限の補強でないといけないと思っている。

委員

せっかく補強したのに効かなかったということは避けたいと思っている。小屋裏にはブレースを設置できるスペースがあるのか。

屋根材は葺き替えるとして、下地は健全か。

設計受託者

スペースはある。和小屋が掛かっているが、作業スペースも含め問題ない。

基本的に下地は健全である。部分的に雨漏り等によって傷んでいるところがあれば修理するが、原則、下地はそのままである。

委員

披雲閣は天井を外して施工していたので、やりやすそうだと思って見ていた。実際天井を外さないで大丈夫か。

設計受託者

雲筋交いが邪魔になる程度かと思う。

委員

木製の筋交いか。水平ブレースの材料は何か。

設計受託者

鉄製であり、鉄筋と言っても1本ものではなく、ターンバックルで繋ぐ。

委員

襖のある場所を壁に置き換える場合は、柱も右側にはいるか。また押入にも新設柱が入るか。

設計受託者

入る。欄間に障子が入っているが、そこにも柱のようなものが入る可能性がある。

委員

長押の上下に構造合板を設置するようになっているが、どのように入れるのか。

設計受託者

二通りの方法があって、面内に入れる場合は長押や鴨居はそのまま、その上下に入れるということになる。面外の場合は長押の形状に切り欠いた柱を立てて、上から壁を設置することになる。

委員

どのあたりか。

設計受託者

初筵観の“を”通りの壁は室内側へのフカシで見ている。

委員

初筵観の北入側の間-2は3方が構造用合板の壁となっているが、日常使用で人の行き来は無い場所か。

設計受託者

今は建具など物を置く場所として使用されていて出入りはあまりない。

委員

今は何が入っているのか。畳の線に合わせたところに建具が入っているのか。

設計受託者

障子である。管理している方が建具を置いていて、締め切られている状態なので、それを壁に置換しても問題ないところである。

委員

完全に塞いだ補強なのか、鉄骨フレームなのか、どちらが良いかは使い方にもよるのか。

設計受託者

それらのことも検討したうえで提案している。

委員

鉄骨柱については、最小限の補強に配慮し色々検討した結果、この案に落ち着いているということと、さらにおさまりについても丁寧に検討されているということがわかった。掬月亭の見え方については、著名な飛来峰からの眺望、また回遊・舟遊ルートの途上など、いくつかの大事な視点場がある。栗林公園の非常に重要な景観構成要素だと思うので、実施設計の時に、内部だけにとどまらず、園内で複数の視点場を設定し、そこからの眺めにおいてどう見えるのか、風景のなかに上手くおさまっているのかを評価・判断する景観シミュレーションをして頂きたい。

設計受託者

ご指摘のとおりであり、検討する。

委員

玉藻公園の披雲閣の耐震補強を行うなかで、現在、高松市が松平家と香川県立ミュージアム所有の資料を改めて調査している。新たな資料が出てくる可能性もある。掬月亭が何時、どのような経緯で建てられたのか知ることができる機会だと思う。今回の実施設計をきっかけとして、改めての資料調査など事務局の方では是非ご検討いただきたい。

事務局

高松市にも協力を仰ぎたい。

委員

畳は表替えするとのことだが、床はどうするのか。

設計受託者

前回修理でしっかりした本床で全て新しくしているので、今回は表替えを考えている。部分的な補修はあるかもしれない。

委員

他に休む場所がなく、掬月亭に無制限に人が入るとなると、何らかの制限が必要になってくるのかと思うが、修理後の公開の方法は変えるのか。

事務局

基本的に今と同じと考えている。

委員

鉄骨とのことだが、ステンレスか。ステンレスは高強度のものか。

設計受託者

外の柱はステンレスだが、そのほかは鉄になるかと思う。床下については検討中である。耐久性の

面で高強度のものを選択する必要があるかどうかによる。

委員

工事はいつ頃からか。

事務局

早ければ来年度からで、約2年間で予定している。

委員

色々予定をしている方もいると思うので、入れないとなると早めに周知した方がよいと思う。

委員

道後温泉では公開しながら工事していた。鉄骨柱を建てるにあたって池の水との関係は大丈夫か。

設計受託者

計画位置では池とは干渉しないが、それより前になると影響すると思う。

委員

素屋根は設置する予定か。

設計受託者

設置予定で計画中である。

委員

工事を公開する必要がある出てくるかもしれない。

委員

グラバー邸では素屋根の外周の中には入れなかったが、見学用の通路を設置した。その分費用もかかった。

設計受託者

庭園側は松もあり、見学通路の設置は難しい。空地側は可能性がある。

9 閉会

10 現地視察における意見

- ・現地に鉄骨柱などの実物大模型を設置して見せてほしい。
- ・障子を構造用合板に置換する場合、ダミーの障子を立てたとしても、障子紙を光が透過しないので、周囲との違和感が生じると思う。
- ・鉄骨柱の色は黒が違和感が少ないか。